

# 令和5年度 第1回 藤沢市地域福祉計画推進委員会

## 議 事 要 旨

### I. 開催概要

1. 日 時 2023年(令和5年) 7月 4日(火) 9時30分～11時35分

2. 会 場 藤沢市役所 本庁舎7階 7-1・7-2会議室

3. 出席者

(1) 委員=19名

・会場出席者

石渡 和実、松永 文和、奥田 吉昭、戸高 洋充、木村 依子、  
越智 明美、山口 燿子、南部 久子、椎野 幸一、鈴木 正貴、  
川原田 武、村上 尚、末吉 育子、河原 寛子、松沢 邦芳、  
江崎 康子、

・オンライン出席者

川辺 克郎、森山 千景

・欠席者

市川 勤、森 もと江、浅野 朝子

(2) 事務局=9名

・福祉部：佐藤部長

・地域共生社会推進室：玉井室長、越川主幹、宮治室長補佐、高橋室長補佐、  
石田上級主査、佐藤主査、渡邊主任

・福祉総務課：古郡参事

### 4. 議 題

1. 開 会

2. 議 題

(1) 今年度のスケジュール

(2) 地域福祉に関する団体ヒアリングについて

①地域福祉に関するアンケート調査結果からの課題

②地域福祉に関するアンケート調査結果に関する意見シートまとめ

(3) 地域福祉計画2026の中間見直しについて

①地域福祉計画2026の今後の方向性について

②地域福祉計画2026素案の主な変更点

③施策の展開引用元

④地域福祉計画2026素案

3. その他

4. 閉 会

## II. 会議の概要（議事要旨）

### 1. 開 会

事務局の新担当職員の紹介後、石渡委員長より挨拶があり議事に入った。

### 2. 議 題

#### （1）今年度のスケジュール

《資料1、に基づいて事務局 渡邊より説明》

⇒質疑応答

#### ○椎野委員

地域団体・福祉団体への聞き取り調査が予定されているが、対象の団体への連絡は済んでいるのだろうか。

#### ○事務局

30～40の団体に随時調査を行うため、現在は概ね過半ほどの団体に連絡の上、調査を行っている。まだ連絡できていない団体にも順次連絡の上、調査を行う予定である。

#### ○椎野委員

熱心に行っていていただいているが、御所見地区の団体に聞き取り調査を行う際は、しっかりご案内いただきたい。可能であれば委員としても同席したいと考えている。

#### ○石渡委員長

ヒアリングには委員の方からも参加のご要望があった。事務局には該当団体の委員の方へもご連絡をお願いしたいので、よろしく願いいたします。

#### ○事務局

議題（2）に入る前に、今年度から参加していただく森山委員が参加されたため、一言いただきたいので、森山委員よろしく願いいたします。

#### ○森山委員

遅刻をしてしまい申し訳ございません。地域福祉についてはまだ不勉強なため、皆様のご意見を伺い、学び、協議に参加させていただきたい。よろしく願い申し上げます。

(2) 「地域福祉に関するアンケート調査」調査結果について

①地域福祉に関するアンケート調査結果について

《資料2、3に基づいて事務局 石田より説明》

⇒質疑応答

○椎野委員

資料2でまとめられた課題について、資料3で意見の詳細を読めば反映されていると思えるが、一般の方がこの課題のみを見ても、理解するのは難しいと考える。PDCAサイクルを考えても、具体的な見直しにつながらないのではないか。自治会の加入等についても同様で、現場の声に触れておらず、きれいごとを感じる。また、課題が調査結果にひもづいていないと感じる箇所もあるが、課題の抽出はどのようにしているか確認したい。

○石渡委員長

アンケートそのものが課題となりうる点に着目して作られ、その結果によって課題が整理されていると理解しているが、確かに切実な課題は個々で違うのかも知れない。他の委員の皆様はいかがでしょう。

○山口委員

善行は自治会加入率が藤沢市内でも最下位の地区だが、話し合いを続けていても良い方策がない。当然ながら災害時などでは自治会加入者・未加入者の区別なく同じ支援が受けられるなど、自治会加入や役を担うことにメリットがないように感じる。自治会運営の好事例があれば知りたい。未加入（退会）の理由を見ると「きっかけがない」「特にない」などが多い結果となっている。「加入率が90%以上の片瀬地区では、転入の際に不動産会社から自治会加入を勧められるという話も聞いている。

ボランティアへの参加意向についても、『参加するつもりはない』の意見が多いように感じる。これも何とかしなくてはならない課題の1つと考える。

○石渡委員長

お話にもあったが、災害時の避難等が最も自分事にとらえられるのではないかと思うが、改めて自治会加入の大切さを市民の方々にどう伝えていくかは大きな課題だと思う。

○椎野委員

自治会未加入者が多い状態でアンケート調査を行えば、資料3「⑤防災について」で述べられているような結果が出るのは当然といえる。自治会未加入

者・避難行動要支援未登録者へ発災時の情報をどう伝えるか、普段訓練に参加していない人をどのように助けるかなど、具体的な問題を解消するための取組が見えない。いま起きていることに目を向けた課題抽出をお願いしたい。

#### ○河原委員

自分が自治会長を務めた時、「自治会に加入しますか？」という聞き方は違うのではないかと感じた。実際に防災の場でも、自治会の手配した施設に避難し、自治会の調達した備蓄品は避難してきた未加入者にも分配される。いざという時に地域の力に期待するのであれば、自分も自治会員として何かすべきではないか、地域の住民すべてが自治会員なのではないか。そのような意識を広めたい。この場で発言することにより、何か変わるのではと考えた。

#### ○末吉委員

河原委員のお話は素晴らしい。昨今は「個人情報保護」のために、人の心にも壁ができてるように感じている。個人情報の保護にとらわれない対話が必要だと思う。

確かに自分は民生委員として、自治会の加入・未加入では見守りや緊急対応に差別はしない。しかし求めるだけではなく、日常で親しく声を掛け合って、地域の一員として互いに助け合う精神を持つことは大切だと考える。災害時に、見知らぬ隣の住人が困っていたら手を差し伸べられるか。また、孤独を感じている人に心を向けられるか。そういう意識を醸成していけたらと望んでいる。

#### ○戸高委員

自分の世代では、自治会に加入して家族で地域に関わってきたが、子の世代では独立しても自治会への感覚が違うと感じる。次世代の疑問に対して当たり前だと感じていても、その違いをどのようにとらえるか、「なぜそうなっているのか」を話していくことも大事なのではないかと考えさせられた。

#### ○松永委員

アンケート調査の内容はすべて課題として挙げられ、回答によって再確認できるものとする。地域福祉計画において、自治会町内会が重要視されていることに異論はないが、加入率の低下や価値観が多様になっていることについては簡単に変えようがない。

地域福祉を考えるとき、自治会加入者だけではない担い手が存在している。「お互い様」ではない自己犠牲や学業等でのメリットが発生していることも忘れず、「お互い様」を重く感じる人々にも関わってもらうことも視野に入れ、調査結果を見ていくべきと考える。居場所でも通う人には様々な事情や都合が

ある。多様性の中では、選択肢の幅が広い方が住民も参考にしやすいと思う。

個別課題と地域課題が混在している調査結果を、緊急性のあること、じっくり取り組むべきことなどのメリハリをつけて分析・まとめを行い、うまく次に活用できればと考えている。

#### ○川原田副委員長

下火になった自治会を支えるのは、有志による活動でも良いと思う。自分の自治会では有志が「防災会」を組織し、次々入れ替わる役員を支えながら防災活動をしている。毎月のイベント開催を企画・運営する有志もいる。「有志ならやるよ」という人が多い感触がある。

#### ○村上委員

資料2・資料3で椎野委員が仰っていたように、抜粋した結果から「見えてくる」課題とするのは無理があるように思う。このまま載せるのではなく、課題抽出の背景や、逆に課題を放置したらどうになってしまうのかという視点も入れつつ、市の保持するデータなども引用して示せば、中間見直しにより活かせるのではないか。

#### ○森山委員

3点述べる。1点目、行政として設問の意図が説明されていると、課題についても頭に入ってきやすいのではと感じた。2点目、自治会加入で30代の方が挙げられていたが、未婚・既婚・子の有無、子の年齢などで各々事情は異なるため、その部分で違いが出てくるのではないか。3点目、防災について。以前居住していた地域で大規模な停電が起きた際に、自分たちの世代は家の外に出て顔を合わせて情報交換をしていたが、子の世代は部屋でSNSから情報収集をしていた。情報取得の取得手段に関しても世代などで精査が必要と思う。

#### ○山口委員

川原田委員に伺いたい。有志の活動費は、どこから捻出されているか。

#### ○川原田副委員長

防災会の活動費は、自治会から出る1万7千円を原資にしている。専門的なところへ直接回覧物を出していただけるよう依頼している。講師を招く際は、無報酬であることを先にお話しし、ご協力いただいている。

#### ○江崎委員

藤沢市は子育てしやすいために転入する世帯が多く、小学校の教室が不足し

ているという情報がある。若い世代が流入してきている現状は悲観するものではなく、アンケート結果も「（自治体加入の）きっかけがない」は、「きっかけがあれば加入する」とプラスの方向で見られると思う。流入してきた方たちをどう地域福祉の担い手にし、引き継いでいけるかを考えることが重要。

### （３）地域福祉計画２０２６の中間見直しについて

≪資料４～７に基づいて事務局 高橋より説明≫

⇒質疑応答

#### ○奥田委員

資料４の重層的支援体制整備事業について、介護保険については特別会計で行われているが、重層的支援となると、一般会計に算入されてくるかと思うが会計的にどうなるのか知りたい。

#### ○事務局

藤沢市では従来から重層的支援に取り組んでおり、事業内容の大きな変更点はなく、歳費についても、それぞれの分野で重層的支援への予算が割り振られているため大きな変動はない。今後「重層的支援体制整備事業交付金」が交付され、それを各分野へ割り振ることになる。微調整は発生すると思うが、若干歳入が増加するイメージを持っていただければと考える。

#### ○川原田副委員長

資料２「（５）地域での付き合いについて」の設問は、居住形態で違いが出るのではないかと検討をお願いしたい。

#### ○石渡委員長

先ほど、未婚・既婚などで違いが出るのではとのお話もあったが、家族構成や居住形態の回答は得ているか知りたい。

#### ○事務局

「同居の家族」「同居人」という形では回答を得ているため、そのような分析はできる。居住形態については設問を設けていないため、こちらは分析ができない。自由回答を拾う形での補足等は可能かと考える。

#### ○石渡委員長

ご意見の中で世代間の違いも挙げられていたが、「住まい方」は地域福祉を考えるに重要な視点と改めて感じている。事務局には今後のヒアリングも含めて、意見聴取の検討を願う。

#### ○松永委員

計画中45ページ「孤独・孤立の防止」。多様な世代の孤独・孤立は広がりつつあると思う。アンケートの設問だけで、「施策の展開」をあらわすのには根拠として弱い。村上委員の仰ったように市の保持する関連データなども根拠にし、孤独・孤立の現状はもっと掘り下げるべきではないか。

「施策の展開」で防止、相談支援、ケアラー・ヤングケアラー問題が特出しているが、これまでの縦割りサービスの弊害を解消することが重層的支援の趣旨であるなら、関係機関の連携・ネットワーク、地域だけでなく社会とつながるまでの伴走支援などまで見せていったほうが良いと考える。

資料4の図表中の「部内計画策定スケジュール」。庁内連携は難しいが図られなければならない。“部内”という言葉も、中心は福祉部となるとは思いますが避けたほうが良い。

#### ○森山委員

2点申し上げる。1点目、「ケアラー・ヤングケアラーへの支援」「孤独・孤立」に関して、重度の障がい者とその介護をする家族という2人住まいの場合、ケアラーではあるが、会話のできない相手の介護という環境は孤独でもある。介護者の状態によって精査し、柔軟に理解し・対応していただけたらと思う。

もう1点、質問となる。「重層的支援体制整備事業のイメージ図」の中で、多機関協働事業とあるが、「重層的支援会議」というのは今ある「ケース会議」と違うものかご説明願いたい。

#### ○事務局

重層的支援体制整備事業は、今年度から市でも本格実施することになっている。個々の事業はすでに実施されており、多機関協働事業は「バックアップ藤沢」「バックアップ藤沢社協」で行ってきたもので、今回整備事業の中で「多機関協働事業者」として位置づけられている。「重層的支援会議」は「ケース会議」と重複する部分も多いが、より制度的に明確化したものとなっている。

#### ○奥田委員

「75歳以上のかたへ」というアンケートについて。老人クラブの友愛活動推進の一環でお配りし、民生委員・児童委員さんが守秘義務で情報を公表しづらい中、老人クラブは縛りがなく、必要のある方はクラブの会員でなくても見守って

いる状況をお知らせしたい。

○石渡委員長

議題（３）の意見収集について、事務局に願います。

○事務局

地域福祉計画２０２６の中間見直しについて、資料７をご覧いただき、ご意見を当日資料②意見シートにご記入の上、事務局までお送り願いたい。返送期限は７月２６日（水）とする。

#### ４．その他

- ・次回（第２回）：令和５年８月２１日（火） ９時３０分より開催予定

#### ５．閉会

以 上